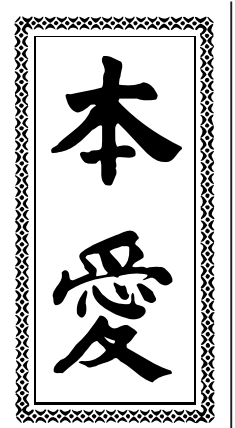


# 「喜びの旬」を目指して――

## 六代会長就任奉告祭への活動目標が発表される



発行  
天理教本愛大教会

〒453-0821  
名古屋市中村区大宮町 1-60  
TEL (052) 461-4326  
FAX (052) 461-4320  
〒632-0071  
奈良県天理市田井庄町 19-1  
TEL (0743) 62-0378  
編集責任 広報部

【活動目標】

喜びの旬  
おたすけの日々  
楽しみの道

### 六代会長 就任奉告祭

令和3年6月20日(日)  
天理教本愛大教会

大教会の元旦祭において、来年6月20日に執り行われる「六代会長就任奉告祭」に向けた活動目標が発表された。

この活動目標に基いて、本愛につながるようばく信者一人ひとりが、勇んで「おたすけの日々」を送ることが望まれている。

大教会で「年」と定め、「喜びの旬」は、来年を「六 おたすけの日々 楽しみの道」との活動目標を掲げて

活動目標

喜びの旬  
おたすけの日々  
楽しみの道

六代会長就任奉告祭に向け、活動目標を記したポスターが各教会に配布された

歩みを進めていく。今年度の元旦祭の祭典後、新年の挨拶に立った大教会長から、来年6月20日に執り行われる「六代会長就任奉告祭」に向けての活動目標が発表され、合わせてポスターも披露された。

大教会長は「これを喜びの旬と捉え、おたすけの日々を送った結果、楽しみの道が見えてくる。楽しみの道というのは、おたすけの日々をしっかりと通った一人ひとりの上に、一軒一軒のようばく家庭の上に昇っていく」と述べた。

また1月12日

の教会長年頭連絡会の席上では、活動目標について「一つ一つ文が分かれるわけではなく、この喜びの旬に、私たちがおたすけの日々を歩むことによって、楽しみの道が見えてくるということとを意味している」と語り、「楽しみの道というのは、まさに家族円満に、またすべて話し合い、どこまでもまとまっていく、楽しみの道です。将来に向かい、希望豊かな家族の姿を、一軒一軒のようばくがお与えいたただこう」と結んだ。

六代会長就任というこの喜びの旬に、にをいがけ、おたすけを積み重ね、親神様の思いにお応えさせていただこう。来年の奉告祭に向かい、本愛の全ようばく信者が着実に歩みを進めよう。そして共に歩んだ一人ひとりが「楽しみの道」を見せていただくことができよう、努めさせていただきたい。

入社祭	1日 午前10時
祭典終了後、教会長連絡会	
よふき会例会	2日 午前10時
月次祭	13日 午前10時
布教実修所	14日 午前9時30分
むつみ会例会	16日 午前10時
青年会・女子青年合同例会	16日 午前10時
本愛こども会	16日 午前10時
委員部長講習会	20日 午前10時
こはる会例会	22日 午前10時
本部月次祭	26日 午前9時

2月のこよみ

談話

# 婦人会創立110周年記念

## 第102回総会を間近に控えて

### — 新たな活動方針に 心を揃えよう —

本愛支部長・安藤くみ子

4月19日に開催される「天理教婦人会創立110周年記念 第102回総会」には、多くの婦人会員の方々と、共に参加できることを心から楽しみにしております。その中で、本愛につながる婦人会員の皆さまにどういう気持ちで記念総会に臨んでいただきたいかということ、この場を借りて、あらためてお伝えさせていただきたいと思えます。

婦人会の成人目標《ひながたをたどり 陽気ぐらしの台となりましょう》は、親神様が人間を創られた思召である「陽気ぐらし世界の実現」に向けて、会員が

が、お道を信仰する女性の大きな目標であります。

そして、その目標に向けて、

旬々に頂戴する真柱様のお言葉を基として、今なすべきことを具体的に掲げたものが活動方針です。今年1月、約3年ぶりに新たな活動方針が打ち出されました。

新しい活動方針は《元をたずね ご恩報じの日々を》です。この活動方針を通じて、「記念総会に臨む姿勢」を婦人会長様は教えてください。

「記念総会に臨む姿勢」を婦人会長様は教えてください。具体的な「原典、教祖伝にを、やのお心を学びましょう」

「原典、教祖伝にを、やのお心を学びましょう」

「原典、教祖伝にを、やのお心を学びましょう」

「原典、教祖伝にを、やのお心を学びましょう」

「原典、教祖伝にを、やのお心を学びましょう」

成人目標  
ひながたをたどり  
陽気ぐらしの台となりましょう

元をたずね「ご恩報じの日々を

一、原典、教祖伝にを、やのお心を学びましょう

一、実のようほくに育ち、育ちましょう

百万会員を目指して

一人が二人の会員を「守護頂きましょう

天理教婦人会

に育ち、育てましょう」という二つの指針が示されています。

原典と教祖伝から、私たちは親神様の思召と尊いご守護、そして、沿うべき「教祖のひながた」を学ぶことができます。そして、学んだを、やのお心を胸に、まず

自らが実のようほくを目指し、また、それを子へとつないでいく。実のようほくとは、教会へ足を運んだり、

ひのきしんに励むということなどに加えて、親神様、教祖の思召をしっかりと胸に治め、人にたすかつてほしいと日々真剣に願う心を持つているようほくのことだと思えます。

さらに、婦人会長様が一貫して示される「百万会員」を目指して、近所や職場、学校など、自分の周囲に苦しんでいる人や、おたすけを必要としている人がいないか、ということにしっかりと心を配っていきましょ

う。

そして、婦人会総会にはそうした苦しんでいる人、たすかつてほしい人をぜひお連れしてほしいと思えます。お連れすれば、必ずその方にご守護を頂けます。

そうした、ご守護を頂けるといふ確信と神様に凭れる強い信念を持って、皆さまには婦人会の記念総会に臨んでいただきたいと思えます。

記念総会の前日には、教祖誕生祭がおどばで執り行われます。お時間が許すのであれば、ぜひ記念総会前日の18日から帰参していただきたいと思えます。教祖の御誕生日を共に祝いさせていただきます。夕づとめ後の記念行事のパレードにも参加して、その喜びの心のまま、記念総会でを、やのお心に沿って心を揃え、一つに歩む決意を共にさせていただきます。

（談）





教理随想



言わん言えんの理を探る

二月といえは受験シーズンの真っ只中。この時期になると大教会にも、親に連れられて参拝に来る受験生らしき若者がいます。親子で合格祈願といきたいところでしょうが、親の胸の内の御礼と共に、子や孫が健康な状態で受験に臨めるよう、また全力を出し切れるよう静かに祈っておられるのではないのでしょうか。

もし受験生に「なぜ勉強するの?」と尋ねれば、どういう答えが返ってくるか。おそらく彼らは「志望

校に合格したいから」と答えるに違いありません。もちろんその通りでしょうが、もっと大きな視野で考えると、そればかりではないことに気づくはずで、たとえば数学に力を入れて取り組んだ人は、単に数学の点数が上がるだけでなく、論理的に物を考える力が身に付きます。また歴史を学べば歴史の知識が増えるだけでなく、さまざまな時代の人の生き方や考え方が分かって、自分の人生にもそれだけ幅と厚みが出てくる。こう考えると、人間にとつて「学ぶ」ことがいかに重要かが分かります。特に若い時代に多く勉強して知識や教養を身に付けることは、学力の向上だけでなく、人間として成長する

ための大切な要素といえるかもしれません。けれども「いつでもいいから勉強しなさい」といわれると、つい安逸に流れてなかなか勉強をしないのが現実でもあります。そういう意味では、受験生として、あるいは社会人として、何かの試験に挑戦しようとする時期も人生には必要なのかもしれません。

\* さて、いよいよ六代会長就任奉告祭へ向けての歩みが始まりました。初代会長様以来、連綿と受け継がれてきた会長の理が、五代から六代へと継承される時句の到来です。この句を単に大教会の歴史の一コマとし

ただけとらえるか、それとも本愛につながるようぼくの将来に関わる出来事として受け止めるか。よく思案しなくてはなりません。おふでさきには、これさいかはやくさとりがついたなら、みのうちなやみすゝやかなる

(四一七三)

と示されます。すなわち信仰の道中で現れてくる出来事を、我が事と悟ってほしいと望まれるのが親神様の思いであり、その心になつてこそ、将来の楽しみみの道につながる。そして報恩の信仰を土台に、おたすけを實踐する日々を歩めば、煩わしい悩み事は神が引き受けてくださつて、身は涼やかにになるとも仰せくださる

努力は魂に徳として伏せ込まれ、植物の新芽が出て花が咲くごとく、人生で幸せの芽となり花となり、やがて結実していきます。もし親神様から「いつでもいいから心の成人に励みなさい」と言われたら、やはり楽な道に流れてなかなかその気にならない、という点でも受験生の心境に似ている気がします。句を仕切るから力が出せる。そのために打ち出されるのが時句の御用であります。

今日から奉告祭まで約五百日。おたすけの日々とは、日常生活を大きく変化させることではありません。今までと変わらぬ日常の中で、人のたすかりを祈る心を養いましょう。そしてご守護を願ひ、我が心のほこりを払つてつとめとさづけに一歩前進する。これがおたすけの日々であります。楽しみ種の蒔きながら日々を歩んでいきましよう。

【第62回】

親心に近づく努力を重ね、旬を仕切つて踏み出す時

人生でいえば受験の時期にたとえられるかもしれません。旬を仕切つておたすけを實行する、おさづけの取り次ぎに励む。こうした

修養科生教養掛

第 942 期

10 月 山田 裕子(本知立)  
11 月 出口 愛子(本道橋)  
12 月 長江まどか(本心)  
右の各氏が教養掛を務めた。

教 人 登 録 者

(令和元年12月23日付)

本今村 鶴田 浩孝  
以上 1 名

修養科第 942 期修了者

本 知 (本正徳) 水野 理歩  
以上 1 名

12 月の 中 席 者 数

(1月20日提出分まで)  
本道橋 1 一 以上 1 名

12 月の 初 席 者

本愛濃 宮田 剛  
以上 1 名

後藤静子さん(本耕部属・  
本白金分教会二代会長夫  
人)  
1月4日に直された。  
享年81歳。告別式は1月6  
日午前11時より、松原悟・  
本耕分教会長を齋主として  
しめやかに執り行われた。

若いお父さん・お母さんへ

家族ぐるみで  
教会へ参拝しましょう



婦人会・青年会・少年会からの提唱

大 教 会 日 誌

令和元年 12 月 25 日 ~ 令和 2 年 1 月 24 日

12 月

26日 本部月次祭  
28日 餅つきひのきしん  
29日 年末清掃・迎春準備ひのきしん  
常任役員会議◇役員会議  
31日 大祓式

1 月

1日 元旦祭  
祭 主・大教会長 扨者・出口順英、大倉光晴  
指図方・板山公司 賛者・吉田清和、久保眞樹  
◇大教会長挨拶  
2日 よふき会初例会  
5日 本部お節会 (7日まで)  
女子青年初例会  
12日 常任役員会議◇教会長年頭連絡会

青年会初例会

こはる会初例会

13日 春季大祭

祭 主・大教会長 扨者・出口道男、安藤正二郎  
指図方・板山公司 賛者・津田豊郎、伊藤寿輝  
◇祭典講話一本部員・深谷善太郎先生

14日 布教実修所

16日 むつみ会初例会

17日 こども食堂MOGU 参加者 51 人

19日 本愛こども会 ニコリンピック

学生会初例会

20日 婦人会初例会

おつとめ・十二下りてをどり、  
大教会長挨拶、会食

21日 おはなし会

ハーフタイム

一昨年の夏頃、私と同じ支部の先生が交通事故に遭ったそうだ。気づいたら病院のベッドの上だったという▼隣には痛みに泣き叫ぶ老婦人。泣き声に眠ることもままならない。なぜ処置しなかったのか、後で聞いてみると、服用していた薬の効能が無くなるまで、手術が行えなかったのだという▼私も月に一度病院へ通っているが、診察後に薬をもらうとき「お薬手帳はもっていますか」と問われる。先の話聞いて、ようやくその質問の大切さがわかった。他人の身体状況把握して行かないば、適切な手当ても行えない▼自分では何もできない状況では、神様のご守護のありがたさにあらためて感じ入る。自分で何でもできるありがたさ、歩けることの喜びよ。

